

## 《30 周年記念講演》

### 科学分析支援センター設置 30 周年記念講演

科学分析支援センター 安武幹雄

#### 30 周年記念講演

科学分析支援センター設置 30 周年記念に当たり、記念講演が平成 22 年 12 月 3 日(金)15:00~17:00, 総合研究機構棟シアター教室にて開催されました。今回は、センター設置 30 周年記念に際し、理工学研究科で機器利用の多い研究室の先生お二方に、本センターを利用して得られた成果を含んだ講演をしていただきました。

共同利用施設の記念講演もあり、理学部、工学部を始めとした教職員及び学部生、大学院生の参加が 91 名と多数であり、これまでの本センターの利用状況等が窺える一面でした。

まず、会の始まりにあたり、石井 科学分析支援センター長より、開会のあいさつをいただき、本センターの利用状況等について説明していただきました。次いで、上井学長のあいさつを頂くとともに平成 21 年度補正予算で導入された機器の充実等についてお言葉をいただきました。



講演者一人目は、理工学研究科に所属する斎藤雅一教授のご講演で、「炭素  $\pi$  電子系骨格にスズや鉛を有する芳香族化合物の合成、構造、及び反応」のタイトルで、お話をいただきました。

斎藤先生のご講演は、芳香族化合物へのヘテロ原子の導入の経緯から始まり、如何にして研究を進めて行ったかを学生のノートを参照に詳しく話していただきました。また、その結果、如何にしてヘテロ原子が含まれる芳香族化合物の特異的な性質を見出したかについても詳細に話していただきました。特に、斎藤先生の研究は、主に不安定な有機化合物を扱うことが多く御自身で本センターの機器を使われることが多いため、分析にまつわる苦労話を詳しくお話していただきました。



二人目の講演者も理工学研究科に所属する先生で、小林秀彦教授のご講演で、「構造・形態制御による機能性無機材料の合成」のタイトルでご発表いただきました。

小林先生のご研究は、セラミックスの合成とその物性評価であり、合成した無機化合物の構造をX線回折から検討するとともに、表面構造を走査型電子顕微鏡や透過型電子顕微鏡で観察し、表面構造や結晶構造が如何に物性に利いているかを判り易くご説明いただきました。また、先生と企業の共同研究における特許化のお話があったため、非常に有意義で参考になりました。

小林先生も古くから本センターを多く利用されており、今日の本センターの機器の充実や依頼分析のサービスに関して詳しく述べていただきました。

最後に、司会者の藤原先生より閉会の言葉があり、科学分析支援センター設置 30 周年記念講演は盛会のうちに幕を閉じました。

